

テーマ：貿易統計（2013年6月）
～輸出は持ち直しの動きが強まる～

発表日：2013年7月24日（水）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL：03-5221-4525

| | | 貿易収支(億円) | | | | 輸出数量 | | | | 輸入数量 | | | | | |
|----|-----|----------|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|------|-----|-----|
| | | 輸出金額 | | 輸入金額 | | アメリカ | | EU | | アメリカ | | EU | | アジア | |
| | | 原数値 | 季調値 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 |
| 12 | 1月 | ▲14907 | ▲5109 | ▲9.2 | 9.8 | ▲10.1 | 0.1 | ▲9.8 | ▲14.9 | 3.2 | 7.7 | 4.2 | 2.9 | | |
| | 2月 | 259 | ▲2405 | ▲2.6 | 9.4 | ▲3.8 | 14.8 | ▲11.4 | ▲8.0 | 3.3 | 5.0 | 11.0 | ▲0.4 | | |
| | 3月 | ▲818 | ▲5577 | 5.9 | 10.5 | 3.6 | 20.1 | ▲11.1 | ▲2.1 | 3.2 | 14.1 | 14.8 | ▲1.5 | | |
| | 4月 | ▲5184 | ▲4234 | 7.9 | 8.0 | 4.7 | 37.4 | ▲5.3 | ▲4.2 | 1.9 | 7.7 | ▲4.3 | ▲3.7 | | |
| | 5月 | ▲9079 | ▲5489 | 10.0 | 9.3 | 9.3 | 39.6 | 1.0 | 2.7 | 8.5 | 5.4 | 9.6 | 6.6 | | |
| | 6月 | 561 | ▲3934 | ▲2.3 | ▲2.2 | ▲2.4 | 10.8 | ▲18.6 | ▲4.2 | ▲0.5 | 9.2 | 1.9 | ▲5.2 | | |
| | 7月 | ▲5286 | ▲4328 | ▲8.1 | 2.3 | ▲10.3 | 0.9 | ▲23.5 | ▲9.6 | 7.1 | 19.5 | 10.1 | 3.2 | | |
| | 8月 | ▲7684 | ▲5458 | ▲5.8 | ▲5.2 | ▲4.3 | 12.3 | ▲19.2 | ▲6.3 | ▲2.1 | 3.2 | ▲2.8 | ▲7.4 | | |
| | 9月 | ▲5682 | ▲10194 | ▲10.3 | 4.2 | ▲11.1 | ▲0.6 | ▲20.7 | ▲10.0 | 4.3 | 13.7 | ▲4.6 | ▲1.8 | | |
| | 10月 | ▲5562 | ▲5442 | ▲6.5 | ▲1.5 | ▲8.1 | 2.4 | ▲24.4 | ▲6.6 | ▲1.0 | ▲3.1 | 2.1 | 2.4 | | |
| | 11月 | ▲9570 | ▲8797 | ▲4.1 | 0.9 | ▲7.5 | ▲0.3 | ▲18.7 | ▲4.1 | ▲0.9 | ▲14.2 | ▲3.5 | 3.2 | | |
| | 12月 | ▲6457 | ▲7706 | ▲5.8 | 1.9 | ▲12.2 | ▲9.8 | ▲15.7 | ▲8.2 | 0.0 | ▲8.3 | ▲6.7 | 1.1 | | |
| 13 | 1月 | ▲16335 | ▲7159 | 6.3 | 7.1 | ▲5.9 | 0.7 | ▲16.0 | ▲0.2 | ▲1.1 | ▲8.5 | ▲1.9 | ▲3.7 | | |
| | 2月 | ▲7813 | ▲10509 | ▲2.9 | 12.0 | ▲15.8 | ▲14.8 | ▲23.7 | ▲14.6 | ▲0.1 | ▲17.6 | ▲4.2 | 2.6 | | |
| | 3月 | ▲3669 | ▲8742 | 1.1 | 5.6 | ▲9.8 | ▲10.5 | ▲16.4 | ▲7.7 | ▲5.5 | ▲21.0 | ▲0.7 | ▲7.2 | | |
| | 4月 | ▲8848 | ▲6848 | 3.8 | 9.5 | ▲5.3 | 4.5 | ▲12.6 | ▲5.0 | 2.0 | ▲15.7 | 8.3 | 4.9 | | |
| | 5月 | ▲9964 | ▲7779 | 10.1 | 10.1 | ▲4.8 | ▲8.7 | ▲18.0 | ▲1.7 | ▲2.4 | ▲13.0 | ▲0.8 | ▲3.7 | | |
| | 6月 | ▲1808 | ▲5987 | 7.4 | 11.8 | ▲7.3 | ▲3.4 | ▲10.4 | ▲5.9 | ▲5.3 | ▲14.7 | 0.8 | ▲5.2 | | |

(出所)財務省「貿易統計」

○ 輸出は持ち直しの動きが強まる

財務省より発表された2013年6月の貿易統計では、輸出金額が前年比+7.4%、輸入金額が同+11.8%、貿易収支は1,808億円の赤字となった。市場予想対比で輸出は下振れたものの、輸入もやや下振れたため、貿易赤字額はほぼコンセンサス(1,564億円の赤字)通りの結果であった。また、季節調整値でみると、輸出金額が前月比+1.1%、輸入金額が同▲1.7%であった。貿易収支額は5,987億円の赤字と、前月(7,779億円の赤字)から赤字幅が縮小している。

物価変動の影響を除いた実質輸出(季節調整値)は前月比+1.3%(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)と増加し、輸出の持ち直しの動きが強まっている。注目されるのは、中国向けの持ち直しが明確となりつつあることだ。中国向けは同+4.1%と2ヶ月連続の増加となった。内訳をみると、日中関係悪化の影響の緩和が継続していることなどを背景に輸送用機器の持ち直しが続いている。一般機械も2011年2月をピークに悪化傾向で推移していたが、ようやく持ち直しの兆しが出てきた。電気機器も基調は上向きつつある。

その他の地域をみると、米国向けが同+1.5%と米国経済の底堅さや円安を追い風に好調さを維持していることに加え、アジア向け(除く中国)も緩やかに持ち直している。一方、EU向けは同+11.2%と高い伸びとなったが、前月(同▲7.2%)の落ち込みの反動とみられ、景気悪化の影響から基調としては底這いで推移している。

このように、EU向けは依然冴えないものの、米国向けの好調さや中国向けの持ち直しなどを背景に、輸出は持ち直しが継続している。特に、中国向けの持ち直しは、これまで同国向け輸出の弱さが輸出増加の足かせとなっていただけに好材料と言えよう。

○ 貿易赤字の拡大には歯止めがかかりつつある

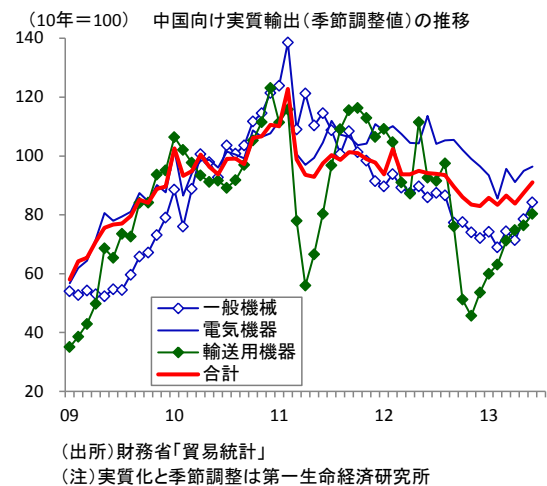
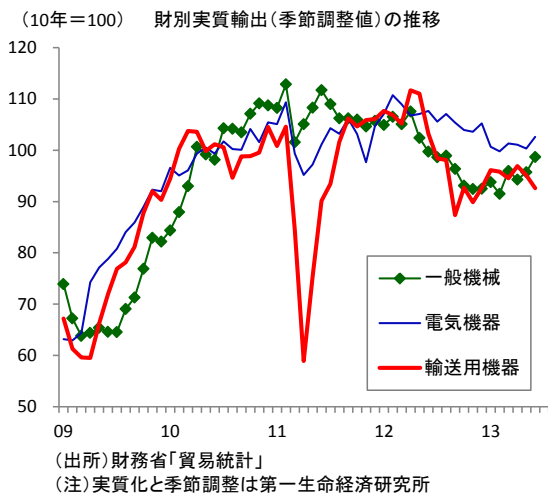
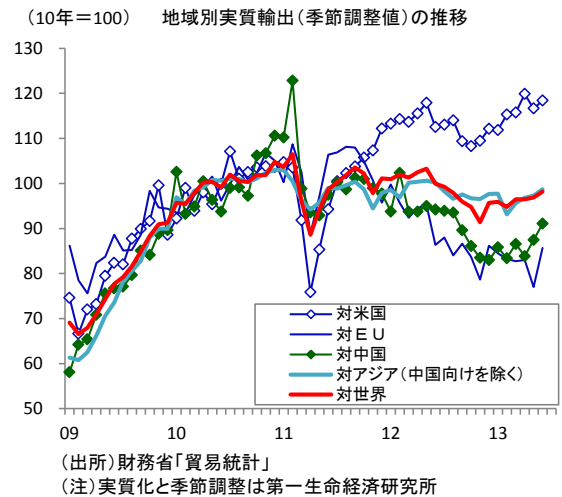
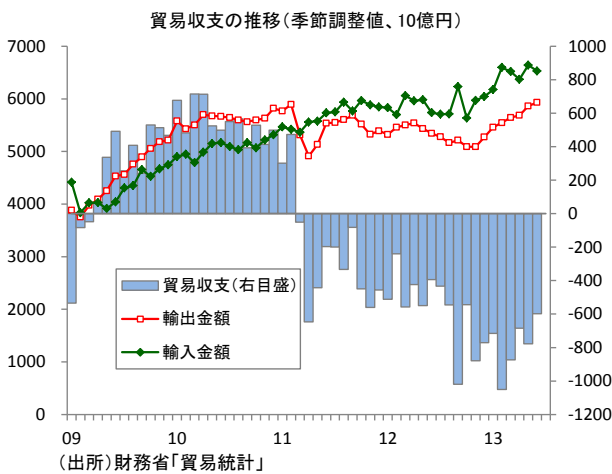
2013年上半期の貿易収支は原数値で4兆8,438億円と、半期ベースで過去最大の赤字額となった。燃料輸

入の高止まりや輸出の低迷により赤字額が膨らんでいたところに、円安による輸入物価の押し上げが一段と赤字を拡大させた形だ。しかし、月次の推移をみると、実質輸出の増加などを背景にこうした一段の赤字拡大には歯止めがかかりつつあることが確認できる。円安は短期的には貿易赤字を拡大させるが、数量効果（輸出数量の押し上げと輸入量の抑制）が顕在化するにつれて、タイムラグを置いて赤字縮小圧力となる。足元では、円安が貿易赤字を拡大させる段階から縮小させる段階に移りつつあることが示唆される。

○ 円安効果主導で輸出は持ち直しが継続。貿易収支も赤字縮小へ

先行きは、円安効果主導で輸出は持ち直しが継続すると予想する。足元では、外貨建ての輸出物価に値下げの動きがみられることなど、円安による輸出押し上げ効果¹に広がりが見える。中国経済の足取りの鈍さなど海外経済に不安は残るものの、円安効果の本格化が輸出増加を支えよう。

貿易収支も赤字幅は徐々に縮小しよう。前述の通り、輸出増加が見込まれることに加え、円安による輸入量抑制の動き²も今後強まる見込みだ。消費税率引き上げ前の駆け込み需要により輸入が押し上げられることで、一時的に赤字が拡大する可能性は高いものの、基調としては赤字縮小となろう。ただし、原発の従来水準での稼働は依然見通せず、燃料輸入の高止まりは継続する可能性が高いことから、早期の黒字復帰は難しいだろう。



¹ 円安の輸出押し上げ効果の詳細については、弊社レポート Economic Trends 「現れ始めた円安の輸出押し上げ効果 ～円安効果主導で輸出は持ち直しが続く見込み～」 (2013年6月27日発行) をご参照ください。

² 円安の輸入量抑制効果の詳細については、弊社レポート Economic Trends 「輸出だけじゃない円安の数量効果 ～円安→輸入量抑制＝国内品調達への押し上げ」といった効果も～」 (2013年7月19日発行) をご参照ください。